

1. 本研修に臨むにあたって

今回、2回目の参加をさせていただいたが、女性審判員としてどうあるべきか、自分なりの課題を持って研修に臨むこととした。

2. ゲームの反省

担当ゲーム【伊農高ー唐津南 吉村・西村(佐賀) 早稲田佐賀ー伊農高 吉村・成林(佐賀)

どちらのゲームも、初めて一緒に組む方との試合となった。ペアの方は、それぞれ前ゲームに試合が入っており、カンファレンスは試合前の10分間で行った。一貫性をもって笛を入れること、レポートをはっきりと示すことを課題として取り組んだ。どちらの試合においても反省として挙げられたことが、「どのようなゲームに対しても自分の基準を明確に示すこと」であった。ゲームのレベルに応じて「これくらいいいのではないか」と何となく基準を決めるのではなく、ゲームによって基準がぶれないようにすることが大切であるということを痛感した。自分自身、笛の弱さを課題としてあげられることが多く、それはゲームに応じて判定基準を変えてしまうことも、自信のなさにつながり、笛の音が弱くなるのではないかという指摘を頂いた。また、トレイルの角度についても指摘を頂いた。3POのCポジションのような位置取りをしている時間帯も見られたので、3POと2POにおけるそれぞれの位置取りを確認する必要があると感じた。

3. 講義参加にあたっての感想

今回の研修テーマは「女性審判の現状と課題」で、ディスカッションを中心とした研修であった。ディスカッションでは、仕事、年齢、ライセンスなどがそれぞれ異なる6～7人のグループで構成されていた。自分が置かれている立場とは異なった方の話を聞くことができ、悩みや課題を共有することができた。そのうえで大切なのは、その悩みや課題を共有するだけでなく、それを解決するために行動することであるという話を頂いたとき、自分自身がまだまだ行動できていないと感じた。本研修で、抱えている悩みはそれぞれ異なっても、自分のために、他者のために行動に移していくことが必要であると感じた。

4. 研修全体の感想

県内で活動している女性は少なくないが、なかなか自分の悩みやほかの方の悩みを聞く機会がなかった。今回の研修で他県のような方との交流を通じて、自分から行動することの大切さを学ぶことができた。ゲームに臨むにあたって、自分から積極的に課題解決のために行動すれば、改善策や、新たな課題に気づくことができると思った。自分自身、自信がないことが原因で活動の機会を与えていただいても、積極的に行動することができないことが多かった。しかし、本研修を通して、自分から情報を求めて行動することが大切であるということを学ぶことができたので、今後の活動に生かしていきたいと思う。

今回の派遣にあたって、お世話になった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。